

contents

- ・第2病棟を大改修
- ・先天性心疾患外科外来を新設
- ・公開講演会のご案内
- ・外来診療休診のお知らせ
- ・診療科紹介
神経内科 / 小児外科 / 精神神経科
- ・特殊災害訓練を実施
- ・老人クラブで講演会
- ・がん患者と家族のためのプログラム



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

■第2病棟を大改修 中央通路で他病棟と直結



外来棟から第3病棟まで約150メートルの中央通路。患者さんやご家族から「便利になった」との声をいただいています。

昨年秋から行っていた第2病棟の改修工事がほぼ完了し、地下1階と地上1・2階から各病棟への行き来が可能となりました。

これまで当院の利用者は、外来棟から院内の各病棟に向かうためには1度建物の外に出なければならぬところもあるなど、まるで迷路を進むような不便さがありました。今回の大改修によって、第2病棟1・2階に中央通路が設けられ、この通路を利用すれば各病棟へスムーズに行けるようになりました。

このうち1階の中央通路（通称：中央通り）には、患者さんやご家族の利用頻度が高い施設を集め、面会受付場所を駐車場に近い中央通路の入口に移したほか、入退院支援室や休憩所、院内案内センターなどを配置し、新たに写真展などを行うギャラリーや静かに思いを巡らすための瞑想室を設けました。

また、1階中央通路の両脇にはコーヒーショップやグッズ販売店、理・美容室、介護ショップ、患者図書室などのアメニティー施設を集約、利用者から好評をいただいています。



公開講演会のご案内

皆様のお越しをお待ちしております。
開催場所はいずれも三鷹キャンパスです。

※申込不要・入場無料

開催日	時間	テーマ	講師
11月12日(火)	18:30-20:00	ちょっと役立つ薬疹の知識	医学部教授 塩原哲夫
11月30日(土)	13:30-15:00	冬に流行する感染症	感染対策室師長 中村貴枝子

■ 外来診療休診のお知らせ ■

杏林学園創立記念日のため、11月11日(月)は外来診療を休診とさせていただきます。
救急の際は高度救命救急センターにて診療いたします。

◆「先天性心疾患外科外来」
新設のお知らせ

先天性心疾患とは生まれつきのもので、医療の進歩や生活様式の変化に伴って、今では子供の患者さんだけでなく、大人の患者さんも多くいらっしゃいます。幼少期や学校の健診などで心臓に異常を言われたことがある、内科治療や手術を受けたことがある、あるいは手術はできないと言われたが、詳しいことはよくわからないという方もいらっしゃるかもしれません。長年経過していても、現在の技術であらためて診断を行い、治療ができる(今より元気になる)可能性があります。

当科では循環器内科、小児循環器内科と協力してこのような患者さんの診断と治療を行っています。上記のような心臓に心配のある方、またそのような患者さんを診ていらっしゃる先生方、どうぞ「先天性心疾患外科外来」にご相談下さい。

担当：野間美緒(心臓血管外科)

診療科紹介

◆ 神経内科

神経内科では、多摩地区の基幹病院として地域の神経疾患診療に貢献することを目標に、神経内科救急を中心に診療を行っています。神経内科は主に中枢神経（脳、脊髄）、末梢神経、筋肉の器質的疾患を対象としており、疾患の種類が多く多彩です。当科では特にパーキンソン病、脳炎・髄膜炎、てんかん、頭痛、多発性硬化症、末梢神経障害の患者さんを多く診療しています。

また、地域の診療レベルの向上と情報共有のために、多摩地区における講演会を年3回、多摩地区における研究会・学会発表を年3回開催し、三鷹市医師会との連携による在宅神経難病患者訪問診療を年4回実施しています。そして、三多摩神経懇話会、多摩神経免疫研究会、多摩パーキンソン病懇話会、多摩Stroke研究会など、三多摩地区における研究会開催に協力しています。

今後も質の高い神経内科診療の提供を目指して、近隣機関との連携を密にし、地域医療の充実に努めてまいります。

◆ 小児外科

小児外科は小児（0歳から15歳）で手術が必要な患者さんの一般外科の治療をしています。当院には総合周産期母子医療センターがあり、今年リニューアルされました。

新生児期に手術が必要な患児もいます。最近では、胎児期から手術が必要な疾患が見つかることが多くなりました。食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症、小腸閉鎖症、結腸閉鎖症などの消化管閉鎖症、小腸捻転症、胎便性腹膜炎（胎児期消化管穿孔）、横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂等は生後早期に手術が必要な疾患ですが、胎児期に診断ができる



ことにより、病棟や手術の準備が円滑になりました。また、麻酔科や関係各科との連携、特別な器械の準備等においても胎児期診断は大きな役割となっています。

出生時体重が1,500グラム以下の低出生体重児の手術も増えています。新生児科の先生にも併診していただき、NICUで術前術中、術後管理を行っています。

◆ 精神神経科

精神神経科は、うつ病や躁うつ病（双極性障害）、統合失調症、パニック障害、強迫性障害、社交不安障害、認知症、摂食障害、睡眠障害などをはじめとする精神障害全般にわたって診療を行っています。

特に睡眠障害については、睡眠障害専門外来を設け、専門医による睡眠時無呼吸症候群、過眠症、睡眠覚醒リズム障害、むずむず脚症候群などの診断、治療を行うとともに、1泊の短期入院で睡眠ポリグラフを測定する病床も備えています。

うつ病や躁うつ病などの気分障害については、認知行動療法（CBT）、薬物療法、経頭蓋磁気刺激療法（TMS）、電気けいれん療法（ECT）などの治療を系統的に行っています。いずれについても先端的な方法を導入しておりますが、特にTMSについては高い評価を得ており海外からも注目されています。

最近新たに認知行動療法専門外来、薬物療法相談外来を開設しました。さらに治療抵抗性統合失調症に対して著効を示す薬物であるクロザピンの治療ベッドも用意しました。今後当科の特色を生かして、多摩地区の精神科施設との連携を強め、包括的な精神科医療を推進していきたいと考えております。



■ 特殊災害（NBC災害）訓練を実施

9月20日（金）、高度救命救急センター（以下TCC）の医師・看護師が講師となり、NBC災害訓練を実施、各部署から代表者およそ50名が参加しました。NBC災害とは、核（Nuclear）、生物（Biological）、化学物質（Chemical）による特殊災害のことです。今回の訓練は特に放射性物質への対応について行いました。訓練はまず、TCCの山口芳裕センター長から被ばくした患者の対応等の講義があり、その後、参加者は二人一組になりタイベックスーツという防護服の着脱訓練を行いました。参加者は手順に従い、お互いにチェックをしながら慣れないスーツの着脱を行いました。着脱訓練後、参加者からは「着ているだけでかなり暑い。これで医療を行うと思うと大変」「動きづら

いが、二次被害を受けないためにはしかたがない」など感想が聞かれました。次に場所をTCC1階の初察室に移し、養生訓練が行われました。訓練は被曝した患者の受入要請があったと想定のもと、受入準備としてディスプレイの医療資機材以外の物品を酢酸エチルのシートで覆う養生を行いました。配管やコード類の養生には傘袋を用いるなどの工夫も随所に見られ、TCCスタッフのよく訓練された迅速な対応に、見学していたスタッフも真剣に見入っていました。



■ 三鷹市老人クラブで健康長寿講演会を開催

9月13日（金）、三鷹市福祉会館において、当院と三鷹市老人クラブ連合会との合同行事として健康長寿講演会を開催しました。11回目となる今回は、高齢診療科の神崎恒一教授と、健康科学大学の金信敬教授による講演が行われ、約90名が参加しました。はじめに、神崎教授から「転倒防止その2」と題した講演、次に金教授から、「気らく運動」の実技講習がありました。講演会は好評を博し、参加者からは「普段では使わない筋肉を使うことができ、とても良かった」「今回の講義を忘れずに、家でも実践していきたい」といった感想が聞かれました。

講演会には好評を博し、参加者からは「普段では使わない筋肉を使うことができ、とても良かった」「今回の講義を忘れずに、家でも実践していきたい」といった感想が聞かれました。



がん患者さんとそのご家族のためのプログラム 「がんと共にすこやかに生きる」

病気と共に上手に生活していくために必要なのは、情報・知識と、仲間同士の知恵や支えです。杏林大学医学部附属病院では、がん患者さんのためのプログラムを開設しています。前半30分の講義のあとは、患者さん同士で情報交換や自由な話の時間です。

毎月第2、第4水曜日の午前中に開催しています。患者さんご本人はもちろん、ご家族・ご友人、がんになったことがご心配な方など、どなたでもご参加いただけます。参加費無料、予約不要です。どうぞお気軽に、ご自由にご参加ください。詳細はポスターをご参照ください。

※問合せ先：杏林大学医学部附属病院 がんセンター事務局
電話番号 0422-47-5511（内線 5158）